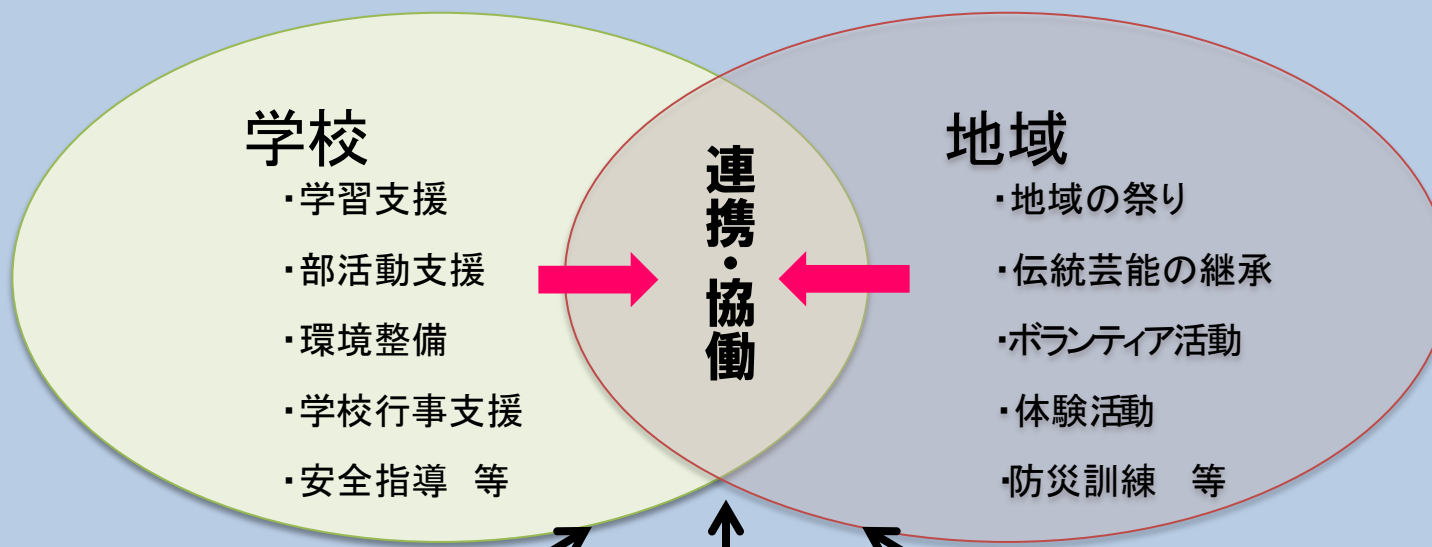


連携・協働のあるべき姿

- ・地域の大人が学校の活動に関わることで、教育活動が充実し、子どもたちに多様な体験・経験の機会が増える。
- ・様々な大人の目で、子どもを見守ることができ、安心した居場所ができる。
- ・地域の支援を得ることで、教職員が教育活動に力を注ぐことができる。



- ・地域住民の自己実現や生きがいにつながる。
- ・一緒に活動することで、あいさつや声かけが増え、地域の絆が深まる。
- ・地域の行事への参加者が増えることで、地域づくりが活性化する。

関係機関・団体等の人材 人権擁護委員 スクールサポーター 民生委員・児童委員 他

地域で育まれるもの

- ・自己存在感
- ・自己有用感
- ・自己肯定感
- ・共感的理解
- ・コミュニケーション力
- ・道徳性
- ・規範意識
- ・人権意識
- ・個性の尊重
- ・地域のつながり
- ・地域、家庭の教育力 等

現状

- 地域の方々とふれ合う機会が増えることにより、児童生徒の自尊感情の育成につながっている。
- 児童生徒に地域への愛情や誇りが育ってきている。
- 地域の方々から、教員が気付かなかった児童生徒の情報提供をしていただくことで、児童生徒の理解が広がった。
- 児童生徒とのつながりができ、声かけがしやすくなった。
- 地域にコーディネーターやボランティアのなり手が少ない。
- 教職員が多忙で、地域の活動への参加が少ない。
- 学校の敷居が高く、学校に入りにくい。
- 学校側の要請に応じた取組に比べて、地域からの要請に応じた取組が少ない。
- 地域と学校の連携・協働の必要性について、教職員や地域の方々の理解が十分でない。

学校支援から、学校と地域との連携・協働にステップアップしていくために必要なこと

- 学校と地域が課題を共有する
- 関係機関による支援
- 地域の人材を活用・確保する